

2023 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	有松唯
研究機関名	広島大学
所属部署名	大学院人間社会科学研究科
役職名	准教授
研究課題名	鉄の文明：起源と形成のパラダイム転換
研究実施期間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

研究成果の概要

イラン北東部における鉄器時代移行期の自然環境と社会環境の解明に結びつく成果を得た。

まず、イラン・北ホラサーン州において、鉄器実用化前の時代の居住痕跡について検討した。対象遺跡は当地における平均的な集落だったと目せる。14 の住居址のレベルが同定でき、住居址から発見された生活用具の推移などから、一定期間連続して居住が営まれていたと判断できる。最下層では炭化木材の層を確認した。このエリアが当時の金属生産の後背地（木材資源・鉄鋼石等の供給地）だったことを裏づける発見と考えられる。おそらくこうした燃料を多量に使用した痕跡と考えられる遺構も見つかっている。生活用具類を整理分析した結果、この集落は鉄器が導入される前の時点で廃絶していることが明らかになった。今後、実年代を測定し、気候変動期に係る断絶か否かを精査していく。

次に、同じくイラン北東部の鉄器普及期（2800 年前頃）について、集落の立地を土壌分布と重ねて検討した。この時期、集落数の大幅な増加が起こったと推定できるとともに、集落の立地が集水域である山麓地帯から離れ、平野部や河川下流域へ拡散していく。生産活動には不適な土壌が広がり、水資源の安定的確保も困難なエリアで、前時期までには居住域としてはほとんど活用されていなかったと目せる。新石器時代（7000 年前頃）まで遡って検証し、鉄器普及時期に特有の居住傾向であることを明らかにした。灌漑や土壌改良が必要なエリアの開発がこの時期に本格的に始まった可能性が指摘できる。